小金井市立図書館貫井北分室ＹＡコーナーへようこそ！

●今回のテーマ●

竜

2024 年が始まって、もう１ヶ月！今年の干支の辰にちなんで、竜・ドラゴンに関する本を集めました。

東洋には龍、西洋にはドラゴンが出てくるお話がたくさん！空想上の生きものですが、特にファンタジー作品にはいつだって欠かせない存在なのです。

『竜が呼んだ娘』

柏葉幸子/作 佐竹美穂/絵 朝日学生新聞社/刊 2013 年［K 913/カシワ］

少女ミアが暮らす谷底の村では、竜に呼ばれた子だけが村を出られる。でも、竜がどんな基準で子どもを呼ぶのかは、誰にもわからない。10 歳になったミアは竜に呼ばれ、王宮で暮らすことになった。ミアが仕えることになったのは伝説の竜騎士・ウスズの屋敷で、みんなから「幽霊屋敷」と呼ばれていて…。

「ウスズ様は――」「いらっしゃるわ」「どこに？」「この部屋のどこかに？」

ミアはウスズ様にかけられた弓の魔女の呪いを解けるのか。

『創竜伝 1』

田中芳樹/著 講談社/刊 2008 年［K 913/タナカ］

竜堂家の４兄弟は、上から始（はじめ）、続（つづく）、終（おわる）、余（あまる）。珍しいのは名前だけではない。なんと４人は、海を支配し、雨を降らせ、雷を起こすという、四海竜王の生まれ代わりなのだという。謎の老人、“鎌倉の御前”は彼らの力を手に入れて、すべてを支配しようと企らんでいた。やがて末の弟・竜堂余が覚醒し…。

「竜……?」「まさか、あれは空想上の動物だろう」

『りゅうのめのなみだ』

浜田広介/文 いわさきちひろ/絵 偕成社/刊 1965 年［緑 E］

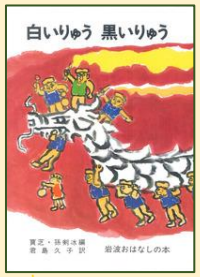
南方のある国では、山にはおそろしい竜が住んでいるという言い伝えがあり、大人も子どもも、みんな竜を恐れていました。ところが、ひとりの少年が自分のお誕生日に竜を呼びたいと言って…。「ね、おかあさん、どうして、だれも、あのりゅうをかわいがってやらないの。」

切なく、そして心あたたまるお話を、いわさきちひろさんのやさしい水彩画で。

『ドラゴンラージャ 1』

イヨンド/作 ホンカズミ/訳 金田榮路/絵 岩崎書店/刊 2005 年［K 92/イ］

フチ・ネドバルは 17 歳。ロウソク職人の父親の仕事を手伝ったり、幼なじみのジェミニと遊んだりと、平和な毎日を送っていた。ある日、魔術師タイバーンと出会ったことで、悪しきブラックドラゴン・アムルタットに捕らえられた人々の身代金を得るため、首都への旅に随行することになる。韓国のウェブサイトから生まれた大長編ファンタジーの第１巻。



『白いりゅう黒いりゅう』

賈芝/編 孫剣冰/編 君島久子/訳 赤羽末吉/絵
岩波書店/刊 1980 年［K 92/シ/］

大工のヤン名人は、息子をつれて故郷に戻る途中、「竜が淵」のそばを通りかかり、恐ろしい黒い竜に息子を淵に引きずり込まれてしまいます。悲しみにくれる名人は、木彫りの白い竜を作り、黒い竜を倒そうとしますが…。表題『白いりゅう 黒いりゅう』を含む、中国の少数民族が語り伝えた６編の物語。

『影との戦い』 ゲド戦記 1

ル=グウィン/作 清水真砂子/訳 岩波書店/刊 2000 年［K 93/ル］

数多くの魔法使いを生んだゴント島に生まれた、ゲド。のちに“竜王”と“大賢人”の２つの名誉ある名前で呼ばれることになるその少年は、真の魔法を学ぶため、ロークの学院に入る。飲み込みが早く、得意になったゲドは、禁じられた魔法で死の影を呼び出してしまう。―影に追われる長い旅がはじまった。

ちなみに、スタジオジブリのアニメ映画『ゲド戦記』は、シリーズ第３巻の『さいはての島へ』を原作としているそうですよ。

『ドラゴン』 飼い方育て方

ジョン・トプセル/著 ジョーゼフ・ニグ/編 ダン・マローン/イラスト
神戸万知/訳 原書房/刊 2008 年［K 38］

ドラゴンって飼えるの!?と思ったあなた、「昔とくらべて、気質がだいぶおだやかになったため、人間が彼らと交流することも可能になりました。」ですって。飼う前の注意点から、あなたにぴったりの品種、名前の付け方、「どうやってドラゴンをお風呂に入れたらいいですか？」なんて質問まで、たっぷり解説。

ドラゴン好きの、ドラゴン好きによる、ドラゴン好きのための本。あなたもドラゴン、飼ってみたい？